



平成 22 年 5 月 18 日

各 位

会 社 名 株式会社キムラタン
代表者名 取締役社長 浅川岳彦
(コード番号 8107 大証第 1 部)
問合せ先 取 締 役 木村裕輔
(電話 078-306-0801)

「継続企業の前提に関する注記」の記載解消に関するお知らせ

当社は、本日発表の「平成 22 年 3 月期決算短信」において、「継続企業の前提に関する注記」の記載を解消いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

当社は、バブル崩壊後の平成 5 年 3 月期に、消費者ニーズの多様化や流通市場の変化に的確に対応できず、営業損失及び当期純損失の計上に至りました。その後、赤字解消に向け直営店戦略を打ち出し、急速に店舗数を拡大しましたが、増加する固定費を吸収できず赤字幅が拡大し続けました。平成 12 年 3 月期には金融機関の指導のもと再建計画を作成、その後も幾度か再建計画を策定いたしましたが、抜本的な構造改革の実現には至らず、前事業年度まで 17 期にわたり営業損失及び当期純損失を計上し、また、平成 15 年 3 月期より「継続企業の前提に関する注記」を記載しておりました。

当社は、当該状況を解消すべく、平成 22 年 3 月期において、製造原価の低減、本部人件費、物流経費をはじめとする諸経費削減策等の大幅なコスト削減策の実施と粗利改善重視の店舗運営による利益改善に取り組んでまいりました。その結果、18 期ぶりの営業黒字を達成し、最終利益計上には至らなかったものの、大幅な改善を実現することができました。

今後もアパレル市場は厳しい状況で推移することが予想されますが、そのような中で競争力と収益性を高め、成長を目指していくために、本来の当社の強みであるベビーに資源を集中し、消費者視点に立ったブランド・製品の開発と提供、サービス力の向上に努めてまいります。さらに、製造コストの低減と売れ筋製品の追加生産体制の確立による利益率の向上により一層取り組むとともに、引き続き諸経費削減・コスト合理化に取り組み、さらなる利益改善を目指してまいります。

また、当社はかつて、継続的な赤字計上の結果、過剰な債務をかかえておりましたが、平成 22 年 3 月期において社債の償還が完了し、また、借入金の返済も進んだことから、期末における借入金残高は 1 億 90 百万円となり債務負担は大幅に軽減されました。当社は、当該借入金について債権者との合意に基づく返済を実行できるものと考えておりますが、一時的に運転資金の必要が生じた場合にも、返済計画の変更と追加融資により対応できるものと判断しております。

したがって、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、当該注記の記載を解消いたしました。

今後も業績の向上、企業価値の回復に努めてまいりますので、株主、投資者の皆様には引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

以上